

557 地区で医療機関ゼロ

22年調査 厚労省、19年比33減少

周辺に医療機関がない
「無医地区」は二〇一二年

十月末時点で全国五百五十
七地区だったことが一日ま
でに、厚生労働省の調査で
分かった。一九年の前回調
査と比べ三十二減少。無医
地区内の人口は計十一万二
千二百六人で、四千六百四
十五人減少した。

無医地区は半径約四キロの

範囲に五十人以上が暮ら
す地区のうち、車などを使
っても一時間以内に病院を
受診できないといった、容
易に医療機関を利用できな
い地域。厚労省によると、
過疎化が進み人口五十人を
割り込む地区が増えている
ことや、交通の利便性向上

を背景に減少が続いている。
無医地区が最多だったのは
は六十四の北海道で、広島
五十三、大分三十八と続い
た。首都圏四都県（埼玉、
千葉、東京、神奈川）と山
形、大阪、佐賀はゼロ。福
井県は八だった。十一県で
増え、最も増加したのは六
増の熊本だった。

厚労省は無医地区と、人
口五十人を割り込み容易に
医療機関を受診できない
「無医地区に準ずる地区」
に対し、へき地診療所開設
や医師派遣の支援などをし
ており、担当者は「引き続
き医療提供体制の維持に取
り組む」としている。